

季節のことは

ビールの季節が到来した。居酒屋で上司を肴に飲むのも結構。会社から帰って晩酌で一杯もよし。屋外でスポーツを観戦しながらグビッと飲み干すのも格別だ。登山でビールをわざわざかき上げて、山上で飲み干すのも至福の甘露。ビールを飲むとトイレに行かなくてはならず不便だと思っただが、「そんなことはない、出す開放感もビールの楽しみさ」と豪語する人もいる。いやはや。

飲み干せるビールの泡の口笑う(立子)

レが近くなる人がいる。のべつ

あなたと三笠をおすぶホット情報

Mikasa NEWS

三笠ニュース

PR旬報/年4回発行
発行所 三笠産業株式会社
郵便番号101-0064 東京都千代田区猿樂町1-4-3
電話03(3292)1411大代表 ファックス03(3233)0530

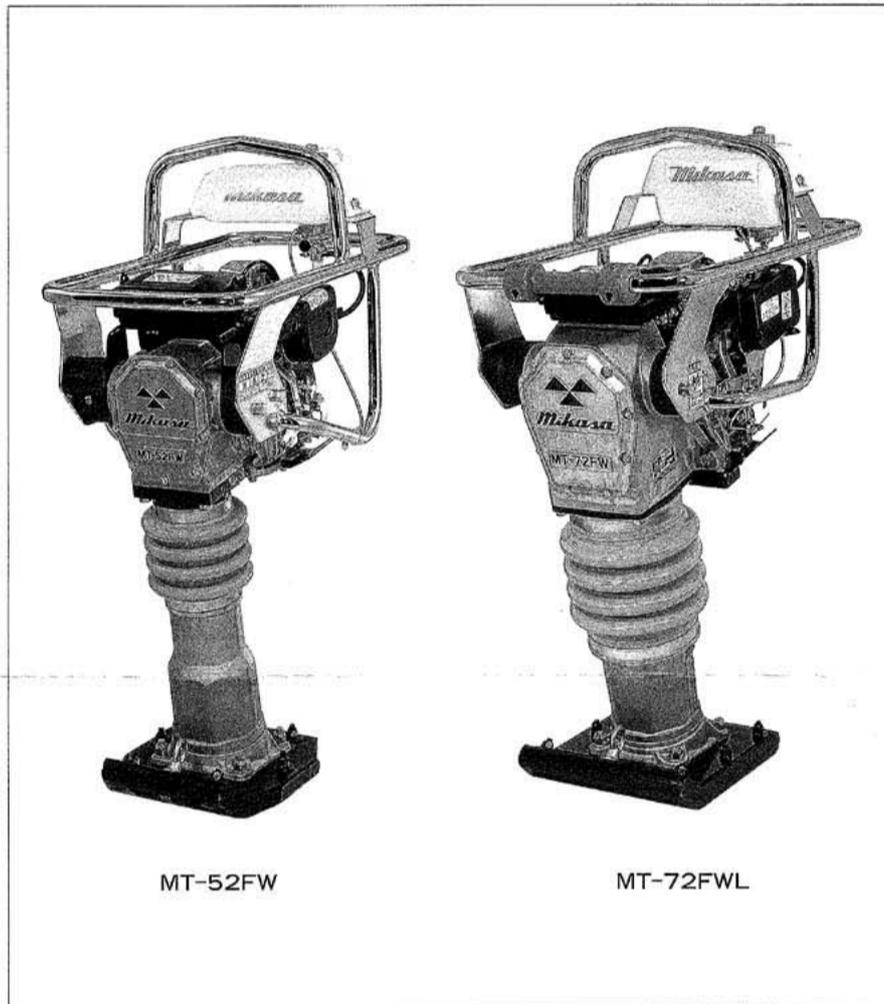
MT-52FW 72FWL が好評! ランマーは4サイクル時代

三笠が初めての4サイクルランマーを発売したのは1996年、MT-50Fでした。それからわずか4年間でMT-72FWL、MT-52FWが登場しシリーズ化されたこともありユーザー様のニーズは急激に4サイクルへ移行しているようです。特に大手レンタル会社さんでは2サイクル用の混合油を用意する必要がないため保守・管理が容易なこと、始動が大変楽なことなどから数百台単位で採用していただいております。かつてプレートコンパクターが4サイクルエンジンに移行したようにランマーも4サイクルエンジンの時代になっていくと予想されます。

三笠が日本で初めて本格的にランマーの生産を開始したのは1960年でした。以来数年前まで30数年にわたってランマーといえば特殊な現場で使用される電動ランマーを除けば2サイクルガソリンエンジンが一般的で、三笠でも多種多様な2サイクルランマーを生産してまいりました。

当初、三笠が生産しているような小型の建設機械、特にランマーのように大きく振動する機械に2サイクルに比べて構造の複雑な4サイクルエンジンは搭載できないと考えられておりました。

そこで本体に関しては輾圧力と操作性及び耐久性という一見相反する能力の融合を目指してさまざまな改良が加えられ、グリス潤滑式からオイルバス式へと技術的な進歩を遂げ、扱いやすい、作業性の良いランマーへと進化してまいりましたが、エンジンに関してはさまざまな改良が加えられ、信頼性は大幅にアップしてきたものの、基本



MT-52FW

MT-72FWL

的には2サイクルエンジンのままでした。しかし三笠の技術者たちはいつかランマーも4サイクルの時代が来るという確信のもと、エンジンメーカーと共に地道な努力を続けておりました。そして近年、ランマーのような小型機械にもよりクリーンなエンジンが求められるようになると共にユーザー様からも4サイクルエンジンを望む声が大きくなり開発のテンポを早めてまいりました。それがようやく実を結びランマ

一専用のOHVエンジンを搭載したMT-52FW、72FWLの完成となりました。

MT-52FW、72FWLの主な特長は先ずエンジンが同クラスの汎用エンジンの中では極めて排気ガスがきれいで、米国のEPA排ガス規制もクリアしているということです。また音もカン高い音が少ないのでオペレーターや現場周囲の人々に不快感を与えることが少なくなりました。更に燃料消費量が少なくランニングコストが軽減されます。しかも自動デコンプの採用によりリコイルスターターを引く力が軽くてすみ、安全に簡単にエンジンを始動することが出来ます。また運搬時など燃料コックを閉じておけば全方向90度に倒しても支障ありません。特にMT-72FWLはハンドル前面にローラーを付けていますので車への積み下ろしが楽に出来ます。

その他2サイクルのMTシリーズと共通の特長ですがメンテナンスの手間を省きエンジンの寿命を延ばすダブルエアクリーナーを標準装備している他こまかなところですが燃料タンクの



京谷達也

朝。窓を開けて夏の庭に視線を持って行く。花たちは季節の交代をすませて様変わりし、春のなごりはどこにも見当たらない。色とりどりではあるが総じて皆これ夏色だ。

生まれたばかりらしい鮮やかな揚羽蝶が舞って来た。飛翔と言うにはあまりにも落ち付かない羽ばたきで、それぞれの花芯に近づくと直ぐ飛び離れてしまう。何故なのだ。咲き始めた夏の花には吸うほどの蜜がないのだろうか。それともわが庭には警戒しなければならない何者かがいるというのか。ほんのひとしきり乱舞をみせただけで、たちまち姿を消してしまった。

蝶も個性があり好みの美を選ぶのかもしれない。昨夜なんとなく書棚からとりだした『世界名詩名訳集』で久し振りの感動を覚え、その揚げ句、現代詩の判らなさ、つまらなさに思い至って慨嘆した。世代時代の移りなのか、詩の枯渇変貌なのか。私はマラルメ、ヴァレリーあたりから判らなくなり、日本でいえば三好達治、井上靖あたりまでが詩の悦楽領域であり、その後は閉ざされた。ついて行けないのである。絵でいうアブやシュールから立ち直り出来ないままに私の中の現代詩は枯れていこうとしているのか。夜の窓で混迷する思考の中何時しか寝入っていた。

夏の朝。またひとしきり庭に佇む。「どれもこれも、3という数字に似ている。そして、いること/いること/3333333333333333...匹、無数の数字まで。」

J・ルナール (辻昶訳)

キャップにはストラップが付いているので給油中に地面に落として汚したりする心配がありません。

このように4サイクルランマーはランマーの基本性能においては永年の実績を有する2サイクルランマー同等あるいはそれ以上のレベルに達し、更に4サイクルエンジンの利点を生かし扱いやすく、環境に優しいランマーとなっております。まだお使いになっていない方はぜひお試しください。

仕様

| | | MT-52FW | MT-72FWL |
|----------------------------|--|--------------------------------|----------------------------------|
| 機体寸法 mm | 全高 | 1,010 | 1,025 |
| | 全幅 | 370 | 415 |
| | 全長 | 670 | 730 |
| 衝撃板の寸法 mm | 幅×長さ | 274×340(4隅をカットした8角形) | 285×340 |
| 装備重量 kg | | 57 | 72 |
| 衝撃板のストローク mm | | 50~70 | 40~60 |
| 打撃数 min ⁻¹ (毎分) | | 615~685 | 640~680 |
| 打撃力 毎回kN(kg) | | 7.4~9.8(750~1,000) | 9.8~11.8(1,100~1,200) |
| 燃料タンク容量 ℓ | | 2 | 2.5 |
| エンジン | 型式 | ロビン EH09 OHV式 4サイクルガソリンエンジン | ロビン EHI2-2 OHV式 4サイクルガソリンエンジン |
| | 最高出力 kW/min ⁻¹ (ps/r.p.m.) | 1.7/4,000 (2.4/4,000) | 2.6/3,600 (3.5/3,600) |
| | 燃料 | 無鉛レギュラーガソリン | 無鉛レギュラーガソリン |
| | 潤滑油 | 自動車用エンジンオイル SE級以上 | 自動車用エンジンオイル SE級以上 |
| 価格 | | ¥311,000 | ¥360,000 |

「三笠」がある風景

標題に応じてお寄せくださった海外編6点を特集しました。これからも、国内・海外を問わず「三笠がある風景」の傑作写真を期待しております。撮影メモを添え、総務部「三笠ニュース」編集係宛て。掲載分には寸志呈上。



ネパール

2000年ミレニアム正月。世界の屋根ヒマラヤ山脈の南側斜面にある王国ネパール。あらゆる傾斜地を利用した段だん畑と部落が天に至る。

カトマンズからチャーター便でクラ飛行場（と言うよりヘリポートと呼ぶほうが適切かも…）まで約1時間。海拔2897mという地上に降りた瞬間から、早くも憧れのトレッキング気分（しかも今回は女房連れ）に浸っているのだった。神々しい純白の雪溪水河に飾られて、稜線をひろげ交錯する山のかさなり。そんな溪谷から誘うように妖艶？な姿をみ



せるローツェ8,300m、エベレスト8,850m…。

その時ふと出会ったのが「三笠ローラー」MR-7型。それは荒涼とした大地と神秘的な女神の美に輝く山々を背景にして、小柄ながらも毅然とかまえている雄々しい勇士であり、歴戦の武者のように見えた。

「おおミカサ君よ…」と声をかけて後は絶句した感動の出会いであった。撮影者 術京屋（愛知県瀬戸市）湯浅良平社長



メキシコ



太陽の国、アステカ文明、高原とコバルトの海…。旅人はロマンチックに夢見るけれど、現地の人々は「それが何なのさ」といわんばかり、のどかに日々を営んでいる。椰子の葉をゆらせて風が通り過ぎた。みごとな太鼓腹を

した親父さんが自転車リヤカー？を漕いでゆっくり走って来た。

なんと、乗っかっているのはミカサのタンピングランマーではないか！カリブ海の波しずくか。作業現場から移動中とのことでした。

撮影者 MQ社

メキシコ セールスマネージャー
エドアルド・バラダス氏



ベトナム

新品の「三笠」をいとも簡単に小型バイクにくくりつける。ずいぶんと大胆だね。落ちやしないか。そんな心配ご無用です、ダイジョーブ。サンダル履きでホイホイ…ですよ。三笠代理店の店頭。真っ青な空の下、ベトナムの真昼時でした。

撮影 ベトナム・ハノイ

泰盛貿易株式会社

福田孝司さん

『前向きにいこうぜ！』

LOOK POSITIVE!!

三笠技術者パリ奔走奮闘記

それは見事な虹だった。

地平線と地平線をまたぐ虹の帯は、一点も途切れることなく大橋となり、あたかも地上を睥睨しているかのようである。薄雲の中に光の排列が繰り出す魔法だった。これほどの虹は、なかなかどうして珍しい。自分自身も生まれて初めて出くわした光景だ。

フランスのグルノーブルで仕事を終えたのが午後4時。車を飛ばして3時間は経つ。このあたりはブルゴーニュ地方ということで、そこらじゅう一面の葡萄畑という風景に、その虹は忽然と

現れたのだった。

嬉しくなって、隣に座っている技術者の田中（仮名）に呼びかけた。

「田中さん、見てください。見事な虹ですよ！」

「……」

顔全体を真上に傾けて爆睡していた。大きく開いた口は、にわか雨ならすぐ貯まりそうだ。口元から涎が一筋流れている……。

そういえばあの時も同じ光景だった。つい2日前のことだ。

5月。パリで建機の大々的国際展示会「INTERMAT 2000」が開催された。

弊社の大型油圧前後進パイプロ、MVH-702DSRCを新製品の目玉として展示することが決まり、設計者の田中とフランスに先発した。代理店の人間にまずデモを行い操作説明をしておく必要がある。何しろこの製品は、その先進的な機能と操作性ですべての競合製品を凌駕する、文字どおり世界一の機械。三笠の誇りと夢が詰まった商品なのだ。

それはともかく、話は出発時の成田空港まで遡る…。

その時、自分は航空会社のチェックインカウンターの前に並んでいた。気配を感じて振り返ると、田中の大きな顔がすぐそばまで迫っていた。

「おい、ちょっとお前のスーツケースを貸してくれ」

「はあ？」

彼はスーツケースを持ち上げると、

残念そうに、

「駄目だな、これじゃ。重すぎる。うーん、しょうがない。ばらすか。」

そう言って、すぐさま立ち去ってしまった。あつけにとられたままチェックインを済ませて、田中を探した。数分後に彼を見つけるが、その姿が圧巻だった。

首からコンパクトカメラ、デジタルカメラ、それにビデオカメラの3本をぶらさげている。中腰になった彼の傍らには、開けられたスーツケースと散乱した荷物が山のように堆積している。ビニールに包まれた何かの部品類、スパナなどの工具、衣類、歯ブラシ、小銭、パスポート、ノート、食べかけのパン、等々…。「いやいや、まいったよ。重量オーバーで7万円も請求されたんだ。ひどいだろう。まあ、35キロだから無理もないんだが」ノ

スーツケースの荷物を減らして、機内持ち込みの手荷物にしようとしているのだ。あやうくこちらのスーツケースに彼のパンツを詰められるところだった。ぼさぼさの髪は逆立ち、夥しい汗を周囲にまき散らしながら、わき目もふらず荷物の整理に没頭している。何事にも熱心で、前向きで決して手を抜かない性格は社内でも有名だ。技術者特有の執念深さも持ち合わせ、



その大陸的な風貌から溢れ出てくるパワーは、周囲を唸らせ、そして、ひるませる。そんな彼と出張することになったのだ。

その後、彼を目撃したのは、荷物を積み替えて無事機内の人となった後だったのだが、その時の彼は顔を天井に向けてものすごい汗をかいていた。残業続きで、連日3時間の睡眠しかとれていなかったそうである。眠っている表情は、実に安らかで曇りのないものだったが、隣の乗客の耳栓が痛ましかった。

あれから2日経つ。

田中がようやく目を覚ました。「えーと、今何時だっけ？」おもむろに携帯電話を取り出すと、「さてよ、今、日本時間で3時だから、



何でも記録に収めるべし。(展示会場で)

8時間を引いて……え？ サマータイム？ するってーとマイナス1時間だから、うーん……結局、いったい何時なんだ？」

腕時計の代わりに携帯電話の時刻表示ですませるのだそうだ。「でもバッテリーがすぐ切れて不便でしょうに」「だから、普段は電源を切っておくんだよ」

そりゃまあ、そうだが……。その後の田中は、途中立ち寄ったドイツのある村で、ハンガリー製ワイン

とドイツ製ワイン(しかも、赤ワイン!!)を連続痛飲し、気分を悪くする。ひっくり返って、ホテルのベッドの上で素っ裸で爆睡していたのを目撃したのだが、これ以上思い出したくない。

INTERMAT 2000は、大規模な国際建機展示会のひとつで、主だった建機メーカーが主力製品と新製品の展示を競い、発表する場で、建機業界の動向を把握するのに最適な展示会である。

さて、後日合流した研究所の所長と田中は、展示会場に着いた途端、期待と興奮でボルテージが急騰し、脱兎の如く会場の中に消えていった。競合他社の展示ブースをくまなく観察し、最新のテクノロジーや売れ筋のトレンドを把握するためである。今後の新製品の開発に対するモチベーションも否が応でも高まっていく。田中の場合、情報収集にかける熱意は筋金入りである。以前の展示会で、彼は他社ブースで展示機械の写真を撮るにとどまらず、機械の下にもぐり込んだり、ノギスでコンポーネントの間隙を計ったり、挙げ句の果てに、密かに持参したスパナでボルトを緩めて機械を分解してしまった、等等。他人の目を全く気にしない。言



やっぱり、他の団体に混ざって、説明をきく田中氏。左手の位置がイイ。

葉の壁も彼にはへっちゃんなのである。しかし、いくらなんでもスパナはやりすぎだ！

その日、彼がひとりでぶつぶつ独り言を言いながら、競合機械の回りを徘徊しているのを偶然目撃した。首にはコンパクトカメラ、デジカメ、ビデオカメラの3種の神器をさげている。近寄ってみると、ビデオカメラを左手でさりげなく機械の下方に差し出しながら、右手のデジカメは別の機械に向けている。

「この防振ゴムの向きは常套手段ですね。口ほどでもない機械です……」などと言いながら、ビデオに録音しているのである。近寄りたがたい雰囲気だった。

昼食もいっさい取らず、会場が閉まるぎりぎりまで走り回り、夕食時に、その日見聞した情報、驚きと感動、現状に対する危機感、自信と戒め、将来の夢を開陳してくれるのだ。これが楽しい。熱い思いが汲めども尽きず溢れ出てくる様は圧巻であった。

ちなみに、大型油圧バイプロ、MVH-702DSRCは予想していたとおり、競合メーカーの驚きと羨望の的になった。何度も構造のチェックにやってくるメ

社長のトクエッセイ 京谷弘世

サミットでオトーリ

今回は今月に九州・沖縄サミットが開催される沖縄から、「オトーリ」について……。

オトーリとはいわゆる一気のみということで、宮古島に古くから伝わる独特の風習である。その作法は次の通り。

オトーリを始める人を「親」と呼ぶ。「親」はまず口上を述べ、泡盛を飲み干す。その後、次の人に泡盛を注いで回す。杯を渡された人は、口上を述べてこれを飲み干し、いったん杯を親に戻す。親は次の順番の人間に同じように杯を渡し、全員に回り終わると、「親」は締めくくりに

上を述べ、グラスの酒を飲み干し、次の親を指名する。指名された「親」はまた同じ事を繰り返し、参加者全員が「親」をやるまでオトーリは延々と続けられる。

ようするに一気のみのおしよ飲み。知らない間に恐ろしい量のアルコールを飲むことになる。ただ、オトーリのおもしろさは単に一気のみをやることではなく、各人一人一人が述べる口上のおもしろさで決まり、利点は機会均等のおしゃべりにある。オトーリをやればしゃべるチャンスがまったく平等に与えられるのだ。普段は寡黙を装っている人がおもしろいキャラクターを発揮したりと、これまでと違う人間性が垣間見えたりして、愉快この上ない。酒を飲み過ぎさえしなければ、なかなかおもしろい風習だと思う。

そこで提案！ 是非サミットでこのオトーリをやったらいかがかと。はたして森さんは何を述べるのか……。

三笠俳句天国

「穂波句集」抄

二、三匹金魚買ひ足し夏に入る
ほの見ゆる化粧の君や青すだれ
月見草咲くや二十日の宵闇に
ひと夕立来るらし草の風そよぎ
花に蝶の夢をみている毛虫かな
今降るは箱根あたりか夕立雲
山の湯の雨に河鹿を淋しめり

カナリヤの雌のみ生きて梅雨明けぬ
うき人に枝豆はじき飛びにけり
蚊遣りして裸夫婦の夕餉かな
涼しさや波来ては去り来ては去り
駅ひとつ野末に見えて雲の峰
天瓜粉子等縁側に並ばせて
河ひとつ雨降り分つ夏野かな
……
同人三百余名の句誌「俳童」を主宰した。「穂波」は故京谷弘世会長の俳号。

メーカーもあった。顧客からも概ね好評をもって迎えられたようである。

一方、わが技術者たちが敵陣視察に没頭している間、こちらは各国代理店の人たちとの面談に忙殺された。最近の円高で、購買価格の高騰に悲鳴を上げている彼らは、ここにきていよいよ限界に達している。痛切な思いをぶちまけられることになった。深刻かつ不毛な論議は長時間続き、お互い疲弊の極みに達した。手がかりのない悔しさと不条理な思いで世にも暗い表情をしていた自分をみかねたのか、同席したイタリア人がこう言った。

「Fuji, Look positive!」(そう深刻ぶるなよ。前向きに考えようや)

技術者田中が竹を割ったような性格であるのに対して、こちらは「餅をついたような性格」である。くよくよと気持ちの切り替えに難渋してしまう。そんな自分に投げられた

「Look positive」。

この一言で救われた。胸のつかえがとれて楽になったような気がした。

田中が一足先に帰国する日がきた。空港まで見送りに行き、入口で互いの無事を祈って、いったん別れたものの、ある予感がはたらいて空港内を覗いてみた。

やはり、思っていたとおりだった。チェックインカウンターの前、列の後方に彼はいた。盛大に店を広げている。今度は部品や工具類の代わりに、展示会場で集めた大量のカタログ類をせせとスーツケースの中から出している。首から3本のカメラ。取り乱した髪、大量の汗……。

空港を出たところで、何かに呼ばれるようにして空を見上げた。

虹だった。今度は小さな小さな虹だ。その虹の中を飛行機が飛んでいこうとしている。涼風が吹き抜けていくような気分の中で、田中の顔が浮かび上がり、ふたたびイタリア人の言葉が木霊した。

「Look positive!」 (文責 ふの字)

—おことわり—
たしかに実在の人物を活写しようと思図した文章ですが、少々の誇張と省略、そして勝手な思いこみと時系列を無視した部分があることを、関係者の皆様方にお詫びいたします。田中さん(仮名)ゴメン。敬称略。

**株宇建 創立30周年
記念式典と祝賀盛会**



わが社の栃木県の代理店であります株宇建様(本社 河内郡河内町白沢1825-2 社長 小野寺隆氏)に於かれましては創立30周年を迎えられ、これを記念して去る6月23日(金)ホテル東日本宇都宮に於いて主力仕入先、来賓約120名を招かれ、盛大に記念式典並びに祝賀会が開催されました。

先ず式典では森田会長より主催者を代表して挨拶があり、同社の創立から現在までの経過と取引先各社へ心からの感謝の意が述べられ、続いて今年の役員改選に伴う新役員の方が次々と紹介されました。

続いて小野寺社長より挨拶があり昨年度の業績発表の後「30年と言う歴史の重みを感じております。これもひとえに取引先各社、社員皆様の御支援の賜と感謝しております。今後も地域社会に貢献するよう努力していく所存です」と力強く述べられました。

引き続き祝賀会が催され、来賓の祝辞、乾杯の後パーティーに入った。場内では宇建さんの社員全員と取引先メーカー、商社各社が和やかに歓談され、盛会の内に終了しました。

同社は県内を11営業所で網羅され、基本理念として販売・レンタル・サービスの3本柱、会社・顧客・仕入先の成長、会社・家庭・社会の充実を願う「三体共栄の精神」を掲げており、地元密着の営業をモットーとされ、お客

様からも絶大なる信頼を得ております。三笠産業としましては販売、レンタル機に永年に於いて大変お世話になっており、改めて深く感謝する次第です。小野寺社長は東京三笠レンタル会の会長という三笠にとって重要な任務にも常に前向きに積極的に指導され会の発展に大いに貢献されています。

森田会長様、小野寺社長様を始め社員の皆様方の今後益々のご発展を心からお祈り申し上げます。三笠からは京谷社長、佐潟部長と小生が出席して心よりお祝い申し上げて参りました。

栃木課 高橋記

**ユアサグランドフェア
2000盛大に開催**



第22回産業と暮らしのユアサグランドフェア2000が5月26日(金)、27日(土)の両日、月寒グリーンドームにて『革新から創生へ・新発想と新技術で21世紀ビジネスを創造』をテーマに、盛大に開催されました。ここ数年、真夏の7月に開催されていましたが、今年は5月の開催となり、穏やかな天候の下、道内各地より大勢のお客様がご来場になり、屋内外の展示場を廻られておりました。各メーカーの展示場には、新鋭機、新製品が実演、展示されており、三笠コーナーも今年は展示スペースを多くし、今最も人気のあるMT-52FW 4サイクルランマー、抜群の輾圧力と作業性を発揮するMVH-304DSB前後進バイプロコンパクターをはじめ

MRH-500DS、600DS振動ローラー、マイコンバイブレーター等々を展示、実演し大変好評を博し、多くのご成約を頂くことが出来ました。この展示会開催に際し、主催者であります「やまずみ会」の皆様方、又、運営にあたり大変ご苦勞されましたユアサ商事(株)の皆様方に感謝し、お礼を述べると共に、益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

札幌課 河合記

**館林工場テレビ番組で
紹介される**

現在は情報化社会、メディアによって取り上げられる情報も毎日溢れるばかりです。そんな中、弊社館林工場が地元のUHF局「群馬テレビ」の番組の中で紹介され、一つの情報として発信されました。

これは、毎週金曜日の夜9時から放送される「ビジネスジャーナル経済彩々」という番組中の「興味津々」というコーナーで取り上げられたものです。

さて放送された内容は、まずリポーターが「今週は道路工事現場でよく見かけるこの小型建設機械にスポットを当ててみました。」とランマーとコンパクターを紹介、そして工場内の機械加工の様子を映し出しました。

ここから番組は十九浦工場長の説明したポイントの一つ「人に安全で環境に優しい」をテーマに進みます。そこで紹介されたのがまずはランマー。弊社のランマーは、現在2サイクルから4サイクルエンジンへと移行しつつありますが、その違いを、6月から当工場内に併設されたばかりの北関東営業所の小野所長が登場し、実演を交えながら説明しました。

その後、「世界初の技術」という視点でマイコンバイブレーターを説明し、さらに新製品のリモコン方式のバイブ



ロコンパクター「MVH-702DSRC」の紹介があり、最後に十九浦工場長へ今後の事業展開についてインタビュー、「昨年ISO9002を取得いたしました。お客様の満足度を高めるためより一層の品質向上を図ることと、常に開発のロマンを持って新製品を生み出したいと思います。」という言葉で締めくくりました。

さてここで取材の裏話を。まず一つ目は「雨」。取材日は梅雨に入ったばかりの6月14日、朝から雨。シナリオでは、冒頭のシーンで工場近くの工事現場からリポートする予定で、ユーザーの工事業者さんからも快諾を得ていたのですが、雨で工事は中止、止む無く工場倉庫内へ特設の「スタジオ」(テーブルクロスで囲っただけ)を急ごしらえし、冒頭のシーンと製品のラインナップ、そして最後のシーンの撮影を行いました。この辺の臨機応変な対応は、流石です。

二つ目は「長い一日」。事前の打ち合わせで、取材は一日かかりますよと言われていましたが、本当にそうなの?.....

本当でした。朝8時30分に始まり全て終わったのは午後6時過ぎ。出演された皆さんご苦勞様。放送は6月23日でした。

館林工場 寺内記

三笠クイズ VOL.38

【問題】 タテとヨコのかぎを解いて1~5の文字をつなげると、夏にちなんだ言葉が浮かびます。さて何でしょう。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ア | ク | サ | シ | ス | セ |
| A | B | D | | | |
| 1 | | 3 | | | |
| | | ウ | 4 | E | F |
| エ | 2 | | オ | | |
| | C | | | | |
| カ | 5 | | | | |

ヒント
ヨコのかぎ
ア. オーストラリア南部ビクトリア州の州都です。かつてオリンピックが開催されたこともあります。
イ. 今年4月からいよいよこの保険がスタートしました。
ウ. 暑い季節は汗拭きに欠かせません。
エ. 「○○とすっぽん」は差が非常に激しいことのとえ。
オ. バッター、○○ナッシングと追い込まれました。
カ. 前に持っていくこと。旅行の期日を○○○○。

タテのかぎ
A. 整備士のことをこう呼びます。
B. 野球ではベースのこと。ついにランナーが○○に出ました。
C. こまかな水のしずくが地面近くに集まって地上をおおう現象。「○○の摩周湖」という曲がありました。
D. 南米コロンビアの首都はサンタ・フェ・デ・○○。
E. 神の○○にしたがって万馬券を当てた。
F. 規則。ゴルフの○○は必ずかしい。

応募の方法 官製ハガキにクイズの答えと住所、氏名、年齢、職業(会社名)をお書きのうえご応募ください。正解者には抽選の上10名様に記念品を差し上げます。

●あて先 ①101-0064 東京都千代田区猿樂町1-4-3

三笠産業株式会社
「三笠ニュース」編集部

●締切り 2000年8月21日(明)消印有効

VOL.37の答えは「クロッカス」でした。次の10名様に図書券をお送りしました。田野聡様(田無市)遠藤京子様(入間市)青木厚子様(練馬区)長瀬千代子様(笠石市)原田薫様(札幌市)新野和子様(町田市)及川真喜子様(西警井郡)宝生戸一夫様(下都賀郡)西澤順子様(北葛飾郡)齊藤道子様(豊栄市)

氏名 佐々木樹
生年月日 昭和50年8月15日
出身地 北海道
所属 第一営業部札幌課
家族 独身



—日頃どんな仕事をしていますか?

製品の在庫管理、お客様への商品発送といった物流業務や、製品に関する質問、修理の相談などの電話対応、お客様への修理の指導、点検等のサービス業務をしています。

—今最も関心を持っていることは何ですか?

自動車がとても好きで、今年からは、本格的にチームを結成してサーキットを暴走?しています。

部品、タイヤなどの購入で金銭的に苦しい状況ですが、仲間と楽しく過ごせるので、とても充実しています。出来れば、年内に3時間耐久レースに出場?したいのですが、エンジブローを起こし(私の責任)只今修理中なので出場できるか瀬戸際です。

『修理費用はどうするのか?』と考えていますが、宝クジでも当たらない限り厳しいですね。

—お客様に一言どうぞ

入社して約4年。私自身まだまだ至らない点があり、お客様にはご迷惑をお掛けすることも有りますが、少しでもお客様のお役に立てる様に努力致しますので、今後とも三笠製品をご愛用頂けます様宜しくお願い致します。

我ら三笠ピールズ



氏名 鈴木裕恵
生年月日 昭和50年8月23日
出身地 東京都
所属 生産管理部資材課
家族 独身

—日頃どんな仕事をしていますか?

生産管理部資材課に所属しており支給部品・工場製品の仕入業務、請求書のとりまとめや製品につける銘板・取扱説明書の発注・管理及び協力会社の親睦団体である笠友会の事務局業務をしています。

—今最も関心を持っていることは何ですか?

今、ネイルアートに凝っていて、4月からスクールに通い習っています。趣味の範囲なので自己満足で終わってしまいますが、たまに友達を実験台にして練習しています。

凝り始めるとキリがないのですが、会社では華美にならないように心がけております。

—お客様に一言どうぞ

今年で入社7年目になりました。まだまだ勉強不足なことが多く、お取引先の方々にはご迷惑をお掛けすることが多いかと思っております。

また、お客様には直接お会いすることはありませんが生産管理部一同、より良い製品をご提供できるよう努力しておりますので、今後とも宜しくお願い致します。